未来を開発する

GPX

ジーピーエックス

サービスマニュアル

安全にご使用いただくために

⚠警告

***ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。**
***お子様が使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いします。**
***この車いすの全ての部品は消耗品です。日頃の点検を怠ると、思わぬ事故や車いすの破損のおそれがあります。**

はじめに

この度はオーエックス製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
この取扱説明書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能･機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取扱い方法や点検･整備などについて必要な事柄を記載してあります。
車いすの取扱いを十分ご存じの方も、この製品独自の装備･取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。
また、お子様が使用される場合は、保護者の方と一緒に本書をお読みいただき、保護者の方の万全なご指導をお願いします。
なお、本書は紛失しないように大切に保管してください。

＊本書を紛失してしまった場合は再発行(有料)いたしますので販売店、または下記までご連絡ください。
＊お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
＊落丁･乱丁がありましたらお取替えいたしますので、下記までご連絡ください。

株式会社 オーエックスエンジニアリング 営業部 お客様ご相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL043-228-0777/FAX043-228-3334

＜保証について＞

お買い上げいただきましたＧＰＸは、競技専用車いすとして製造された特殊車いすです。お買い上げ後の保証については、対象となりませんのでご了承ください。また、あなたが使用状態に合わせて、日頃の点検、整備を行って、常に最良の調子を保つように心掛けてください。

＜シリアルナンバー表示位置＞

アフターサービスについてのご相談に対し的確な判断、処置をするためシリアルナンバーを正確にご連絡ください。なお、シリアルナンバーはメインパイプ後方に貼られています。

あなたの車いすのシリアルナンバー

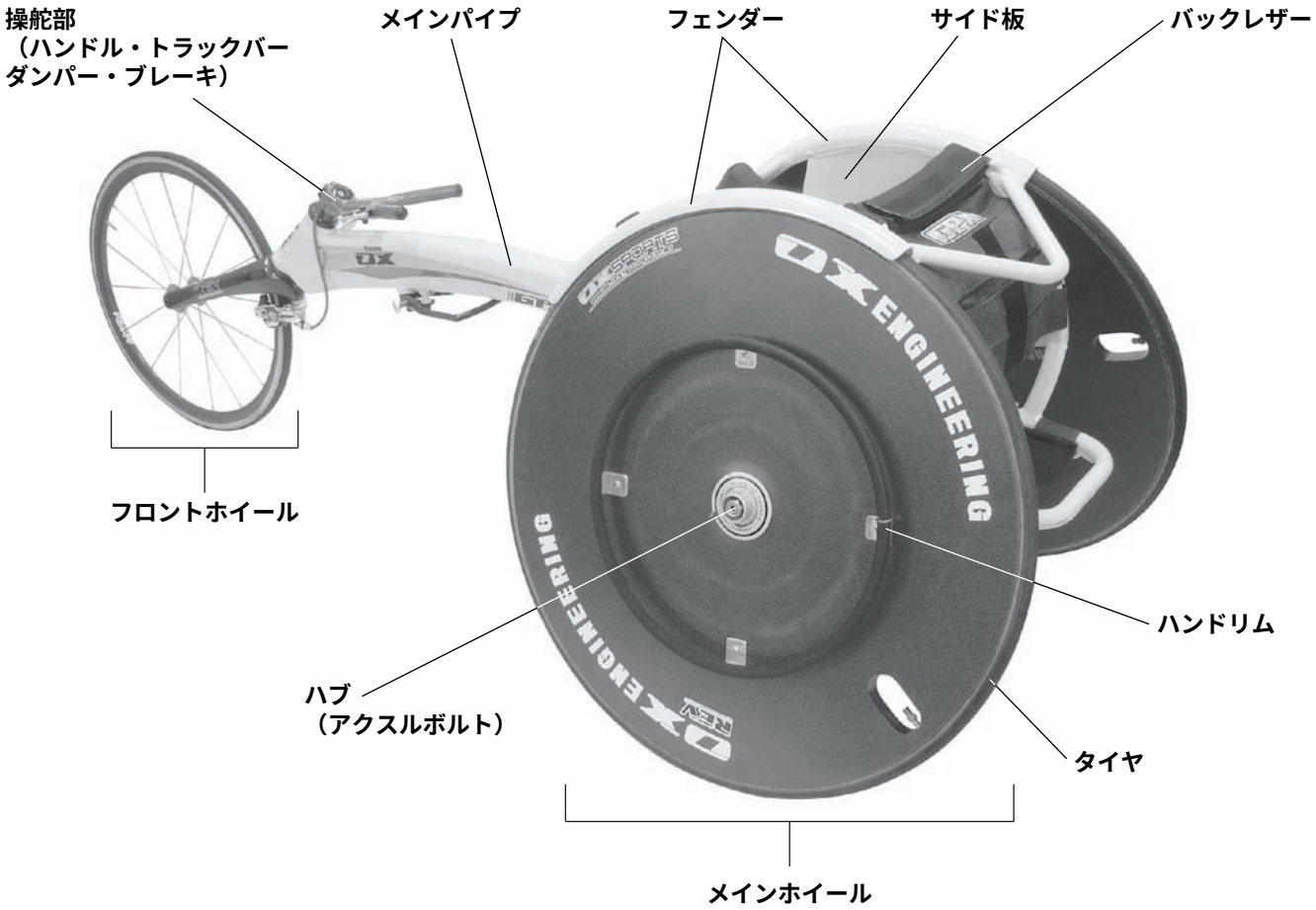
＊仕様変更や各機種共通仕様などにより図や内容が一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

＜付属品＞

付属品は次の通りですのでご確認ください。

本書

＜各部の名称＞**（仕様により、下の写真とは内容が異なります。）**



もくじ

はじめに

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
保証について ・・・・・・・・・・・・・・・・1
シリアルナンバー表示位置 ・・・・・・・・・・1
付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・2
もくじ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・4
絵表示について ・・・・・・・・・・・・・4
警告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

1章　総説

基本的な操作方法・・・・・・・・・・・・・11
お手入れについて・・・・・・・・・・・・・11
保管について・・・・・・・・・・・・・・・11
調整・点検について ・・・・・・・・・・・・11
調整可能な箇所・・・・・・・・・・・・・・11

2章　乗車位置

バックレスト及びレザー類の調整・点検
バックレザーの張り調整・・・・・・・・・・13
バックレザーの着脱・・・・・・・・・・・・13
シートレザーの調整・・・・・・・・・・・・14
ニーレザーの調整・・・・・・・・・・・・・15
ニーレザーの着脱・・・・・・・・・・・・・15

3章　回転部

メインホイール回りの調整・点検
メインホイールの外し方・・・・・・・・・・17
メインホイールの取付け方・・・・・・・・・17
メインホイールの点検・・・・・・・・・・・17
フロントホイールの調整・点検
フロントホイールの外し方・・・・・・・・・18
フロントホイールの取付け方・・・・・・・・18
フロントホイールの点検・・・・・・・・・・18
その他の点検
タイヤの点検・・・・・・・・・・・・・・・19
ホイール・ハンドリムの点検 ・・・・・・・・19

4章　操舵部

トラックバーのやさしい調整・点検
トラックバーの使用方法・・・・・・・・・・21
トラックバーの調整（直進）・点検 ・・・・・・21
トラックバーの調整（コーナー）・点検 ・・・・21
トラックバー及びダンパーの調整・点検
トラックバーの調整・点検 ・・・・・・・・・23
ダンパー（直進）の調整・点検 ・・・・・・・・23
ダンパーのガタ修正・・・・・・・・・・・・23
ブレーキの調整・点検
ブレーキの微調整・・・・・・・・・・・・・25
ブレーキの調整・・・・・・・・・・・・・・25
ブレーキシューの調整・・・・・・・・・・・25
ブレーキの片効き修正・・・・・・・・・・・25
ハンドルのガタ修正
ハンドルのガタ修正（R-07）・・・・・・・・27

アクセサリー・アフターサービス

フットボードの調整・点検
フットボードの調整・・・・・・・・・・・・29
フットボードの着脱・・・・・・・・・・・・29
ハンドリムの着脱・点検
ハンドリムの着脱方法・・・・・・・・・・・30
トーアングルゲージを使った点検・修正
トー角の点検・・・・・・・・・・・・・・・31
トー角の修正・・・・・・・・・・・・・・・31
お客様ご相談窓口のご案内
お客様ご相談窓口・・・・・・・・・・・・・32
アフターサービスの実施・・・・・・・・・・32
パンクでお急ぎの場合には・・・・・・・・・32

安全上のご注意

＜絵表示について＞

この取扱説明書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 **この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を指しています。**

⚠注意 **この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を指しています。**

この表示は、増し締め箇所を示しています。
定期的に、緩みがないか点検・増し締めをして下さい。
※工具は付属されていません。

この表示は、モリブデングリスを塗布する箇所を指しています。
定期的（1か月に 1度が目安）に、モリブデングリスを塗布して下さい。

この表示の示す箇所には、絶対に潤滑油などの油分は塗布してはいけません。
万が一油分などが付着した場合は、乾いた布できれいにふき取ってください。

⚠警告

陸上競技以外の目的に使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。
この製品は、陸上競技専用です。補助動力装置を付けて使用しないでください。

壊れたままや異常がある時は使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。
故障や異常を見つけたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。

改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させたりし、事故や転倒などのおそれがあります。
改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

調整作業に不安がある時は調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。
不安な時は販売店にご相談ください。

不十分な調整状態で使用しない。

身体に無理をかけたり、褥瘡（じょくそう）などになるおそれがあります。
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が接触しないように調整してください。

ホイールの装着後、固定を確認せずに使用しない。（P.17）（P.18）

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。
必ず乗る前に点検してください。

高温になる場所（炎天下の自動車内、暖房器具の近くなど）に置かない。

高温になり、火災ややけどなどのおそれがあり、また、パンクなど部品を著しく傷めるおそれがあります。

車いすに巻き込まれやすい服装は避ける。

ホイールやキャスターなどに巻き込まれ、事故や転倒などのおそれがあります。

他の乗り物につかまりながらの移動はしない。

車いすを損傷させたり転倒、転落などのおそれがあります。

車いすを踏み台にしたり、車いすの上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒、転落のおそれがあります。また、車いすが損傷するおそれがあります。

素手で車いすを使用しない。

GPXは、ハンドリムに特殊なコーティングを施していますので、素手で使用するとやけどやケガをするおそれがあります。
専用のグローブなど、手や手首を保護出来る物を付けてから使用してください。

⚠警告

フットボードに乗ったり、立ったりしない。
転倒や転落などのおそれがあります。また車いすが損傷します。

リム、ブレーキ、タイヤ、ハンドリムにワックスなどの油分を付けない。
ワックスなどの油分が付くと、タイヤやグリップが滑り十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突、転倒などのおそれがあります。
ワックスなどの油分が付いた時には、十分脱脂してください。

雨などでハンドリムが水に濡れた時は、スピードを出さない。
リム（ブレーキシュー接触面）やハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突、転倒などのおそれがあります。
水分が付いた時には、乾いた布で十分拭き取ってください。

下り坂などではスピードを出さない。
衝突や転倒などの事故をおこしやすく危険です。
ブレーキでスピード調整してください。

急坂などの自操は避ける。
事故や転倒のおそれがあります。
介助してもらいましょう。

悪路・荒地には入らない。
事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。この製品は、平坦地専用です。山岳、荒地、砂地、河原、水中、泥地などのオフロードでは使用しないでください。

凹凸の激しいところ（踏切、歩道などの段差や溝）は自操を避ける。
車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。
車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

ペットを連れて使用しない。
ペットに車いすごと引きずられ、事故や転倒などのおそれがあります。

滑りやすいところは避ける。
降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく事故や転倒などのおそれがあります。

傘をさして使用しない。
レインコート・帽子などを使用してください。また、グリップが濡れて滑りやすくなりますので注意してください。

⚠警告

運動機能が低下するもの（ｱﾙｺｰﾙや風邪薬など）を摂取した時は自操しない。
事故や転倒、転落などのおそれがあります。

未使用時の車いすに乳幼児を近づけない。
車いすを倒して下敷きになったり、ケガのおそれがあります。

ウイリー（ｷｬｽﾀｰ上げ）は十分熟練するまで一人でやらない。
転倒のおそれがあります。

走行中の回転部（ｷｬｽﾀｰ、ﾀｲﾔ、ｽﾎﾟｰｸなど）に手を触れない。
手を巻き込まれるおそれがあります。

エスカレーターは使用しない。
事故や転倒、転落のおそれがあります。

点検、整備をする。
点検、整備を怠ると、故障や事故などのおそれがあります。
使用前・使用後の点検、整備および使用頻度に応じた各部の点検、整備をしてください。

車いすをこぎだす時、また走行中は周囲に気を付ける。
子供などが車いすの回転部、可動部に手などをはさまれるおそれがあります。

夜間走行は避ける。
事故に遭うおそれがあります。
明るい道の利用、視認性の高い服装・機器などで自衛しましょう。

移乗時・停車時・未使用時は、車いすが動かないように固定（ﾌﾞﾚｰｷ）する。
車いすが動き出して落下・転倒・転落などのおそれがあります。
少しの間の停車、停止でも必ず車いすが動かないように固定（ﾌﾞﾚｰｷ）してください。

身体の状態に適したクッションを使用する。
褥瘡（じょくそう）になるおそれがあります。身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分（ﾌﾚｰﾑなど）が接触しないように使用します。

上半身の不安定な方はベルトなどを使用する。
転落や転倒のおそれがあります。
オプションのベルト類などを使用して身体を安定させましょう。

ＧＰＸに乗ったままで、持ち上げられない。
車いすが破損したり、介助者や使用者がバランスを崩し落下や転倒・転落のおそれがあります。持ち上げられることに、耐えられる車いすに乗り換えてください。

⚠注意

素足で使用しない。
ケガのおそれがあります。
靴下をはき、底のある履き物を履いて使用してください。

タイヤをにぎって走行しない。
事故や転倒、転落のおそれがあります。
必ずハンドリムをにぎってご使用ください。

屋外に放置しない。
気象や気温の変化により、車いすが著しく劣化します。
必ず屋内に保管してください。

面ファスナーは、確実に貼り付ける。
固定力が低下して、調整状態が変わります。

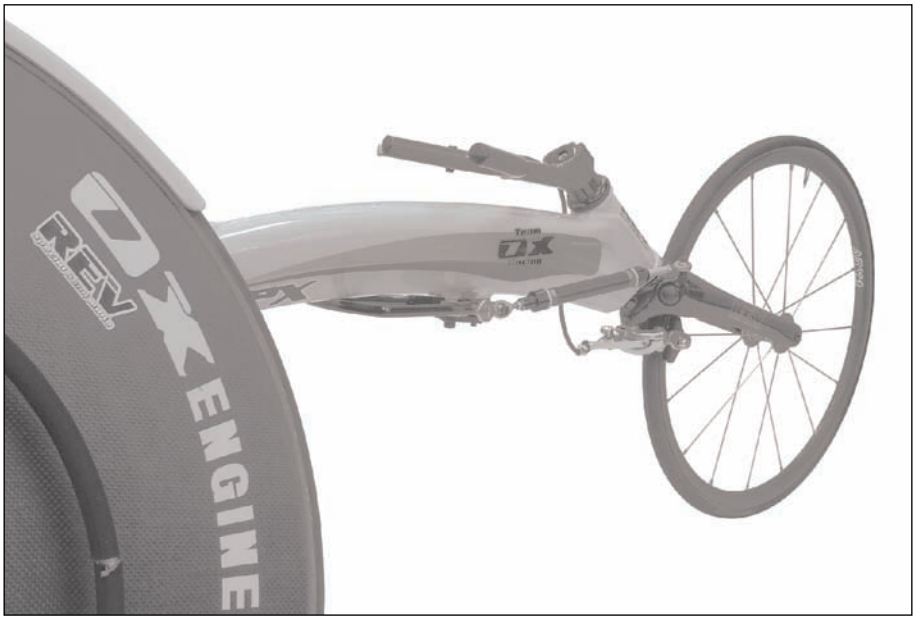
面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。
固定力が低下して、調整状態が変わります。

無塗装のGPXのメインパイプ等アルミ材質の部分に、汗が付いてしまった時はしっかりと拭き取る。(P.11)
アルミが酸化して、強度が低下します。
タオル等を濡らし、しっかりと拭き取ってください。

1章
総説

この章では、基本的な操作方法とお手入れや保管方法及び調整・点検について説明しています。

- 基本的な操作方法
- お手入れについて
- 保管について
- 調整・点検について
- 調整可能な箇所



基本的な操作方法

○ＧＰＸのシート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。
○足はニーレザーに載せるか、フットボード（ｵﾌﾟｼｮﾝ）に乗せてください。
○走行する時は、ハンドリムを手動で回転させて走行します。
○停止する時は、ブレーキレバーを手でにぎり、ブレーキを掛けて停止します。
○無塗装のＧＰＸを使用されている方は、メインパイプ等アルミ材質の部分に汗が付かない様な対策を施して使用してください。(ビニールテープや防水シート等を巻く)

お手入れについて

○ご使用後に毎回清掃することをお勧めします。
○こまめに清掃することにより、ＧＰＸの異常を早期に発見することにもつながります。

保管について

○必ず屋内で保管してください。
○ご使用後は、タイヤの空気を抜いて接地させないようにして、保管してください。
○再びご使用の際は点検・整備をしてください。
○無塗装のＧＰＸを使用されている方は、メインパイプ等アルミ材質の部分に汗が付いた場合は、タオル等を濡らして拭き取ってください。

調整・点検について

○ＧＰＸは、各所に調整機構がありますのであなたの状態、プレイスタイルなどに合わせて各所の調整を行ってください。
○調整作業上メインホイールを外した方が、作業しやすい場合がありますので、作業に合わせてメインホイールの着脱を行ってください。
○最適な姿勢で使用できるように各部の調整を行ってください。(『2章　乗車位置』参照)
○調整作業に不安がある場合は、ご自分では調整しないで、販売店に依頼してください。
○ＧＰＸは競技用車いすです。使用前に毎回点検を行ってください。
○点検を怠ると思わぬ事故につながります。

調整可能な箇所

○ＧＰＸには、次の箇所に調整機構があります。

□バックレスト（ﾊﾞｯｸﾚｻﾞｰの張り）
□シート（ｼｰﾄﾚｻﾞｰの張り）
□ニーレザー（角度・張り）
□車軸（ﾄｰ角）
□トラックバー（直進・ﾄﾗｯｸﾊﾞｰでの蛇角）
□ダンパー（直進）
□フットプレート（高さ）：オプション
□ハンドリム（ﾘﾑと間隔調整）：オプション

※市販の工具で調整可能ですが、部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。不安な時は販売店にご相談ください。

2章
乗車位置

この章では、乗車位置に関する調整について
説明しています。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

ニーレザー (P.15)

シートレザー (P.14)

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜バックレザーの張り調整＞【図１-1】【図１-2】【図１-3】

1）左右の面ファスナーA・Bを剥がす。
2）左右の①ネジを緩める。
3）シートレザー裏側のバックレザーを剥がす。
4）最適な張りにして左右の面ファスナーA・Bとシートレザー裏側のバックレザーを貼り付ける。
5）左右の①ネジを締める。

＜バックレザーの着脱＞【図１-1】【図１-2】【図１-3】

1）左右の面ファスナーA・Bとシートレザー裏側のバックレザーを剥がす。
2）左右の①ネジを緩める。
3）面ファスナーA・Bとを引き抜きバックレザーを外す。

※バックレザーを取付ける際は、逆の手順で取付け調整する。
取付けの際、左右の面ファスナーAは必ず「C」を通して面ファスナーを貼り付けてください。

①ネジ締付けトルク　4N･m（0.4kgf･m）

⚠注意

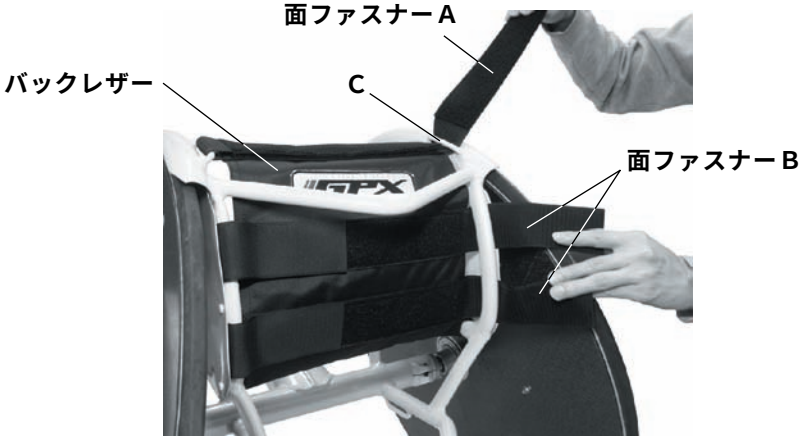
バックレストの全面で背中を受けるように調整してください。
＊背中や腰に褥瘡等ができるおそれがあります。

⚠注意

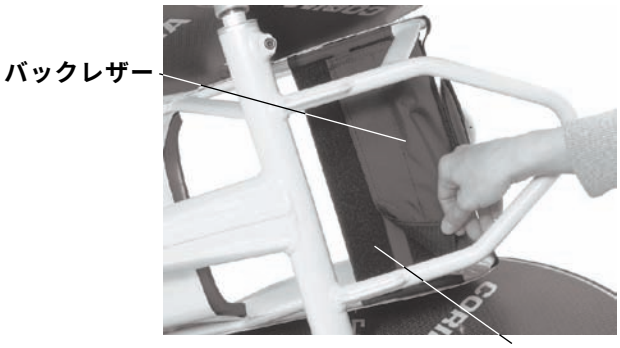
面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。



【図１-1】



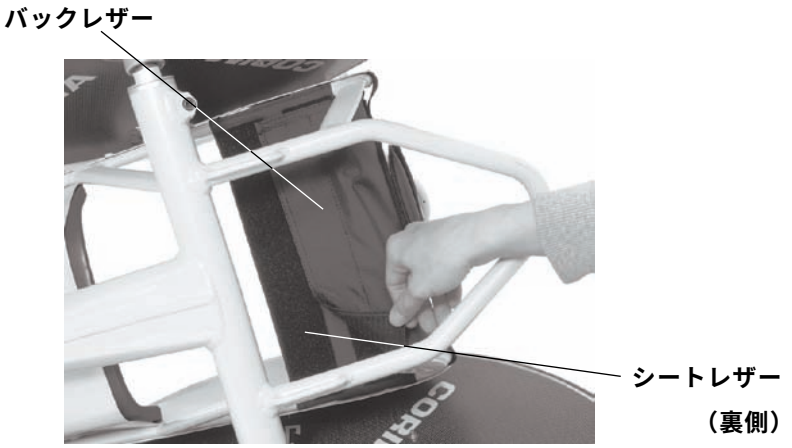
【図１-2】 シートレザー（裏側）

【図１-3】 サイド板

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜シートレザーの調整＞【図１-4】【図１-5】

１）シートレザー裏側のバックレザーを剥がす。
２）シートレザー着座側の面ファスナーを剥がす。
３）シートレザーを最適な張りに調整して面ファスナーを貼り付ける。
４）シートレザー裏側のバックレザーを貼り付ける。



【図１-4】

【図１-5】

⚠警告

シートレザーを緩めすぎない。
＊フレームやパイプなど、固い部分に身体が触れ褥瘡などになるおそれがあります。
＊取付け及び調整後や使用前に、必ず点検をしてください。

⚠警告

シートレザーがたるんできたら交換する。
＊フレームなどに接触して褥瘡などになるおそれがあります。
＊調整後は必ず乗車した状態でシートレザーがフレームなどに接触していないか確認してください。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜ニーレザーの調整＞【図１-6】【図１-7】

１）ニーレザー裏側の左右のベルトを剥がす。
２）最適な張りに調整する。
３）ニーレザー裏側の左右のベルトを貼り付ける。

＜ニーレザーの着脱＞【図１-6】【図１-7】

１）ニーレザー裏側の左右のベルトを剥がす。
２）ニーレザーを引き抜く。
※ニーレザーを取付ける際は、逆の手順で取付けます。
取付けの際、最前のベルトは必ず「A」を通してパイプに巻き付け、面ファスナーを貼り付けてください。

⚠警告

取付けの際、最前のベルトは必ず「A」を通す。
＊ニーレザーが後方にずれ、転倒、転落のおそれがあります。

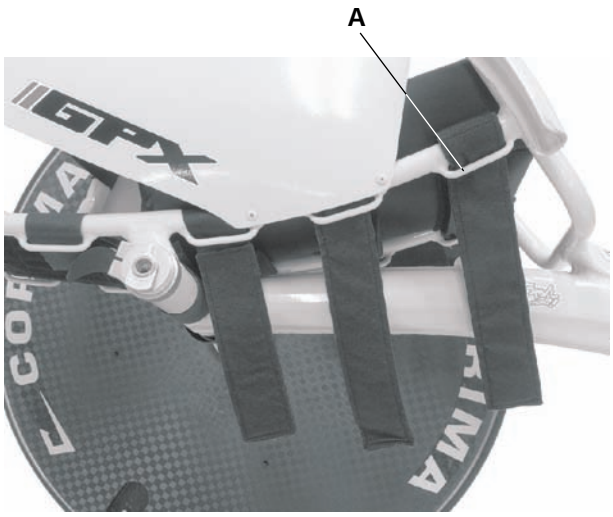
⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わります。

【図１-6】



【図１-7】

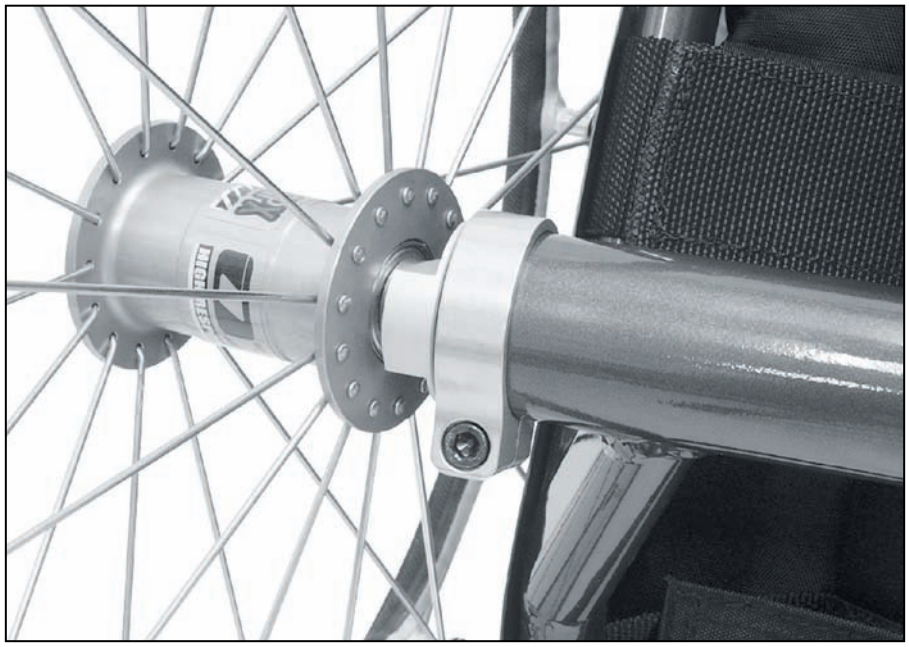
3章
回転部

この章では、回転部に関する調整について説明しています。

メインホイール回りの調整・点検

フロントホイールの調整・点検

その他の点検



メインホイール回りの調整・点検

＜メインホイールの外し方＞【図２-1】

１）タイヤの空気を抜く。

２）タイヤがフェンダーに引っかからないように、リアハブ（メインホイール中央部）中心部のアクスルボルトを回してホイールを外す。

＜メインホイールの取付け方＞【図２-1】

１）タイヤの空気を抜く。

２）タイヤをフェンダー内に少しずつ入れながら、リアハブ（メインホイール中央部）中心部のアクスルボルトを回して軸穴に取付け締付ける。

＜メインホイールの点検＞

○ ホイール装着時に、アクスルボルトが確実に締まっていることを確認する。

※ 異常がありましたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。

○ タイヤの減り具合、空気圧を見る。

※ タイヤから布地が少しでも見えたら交換してください。（Ｐ19）

※ タイヤの空気圧はＰ19を参照してください。

アクスルボルト締付けトルク　10N･m（1.0kgf･m）

⚠警告

ホイールが確実に固定されていることを確認する。

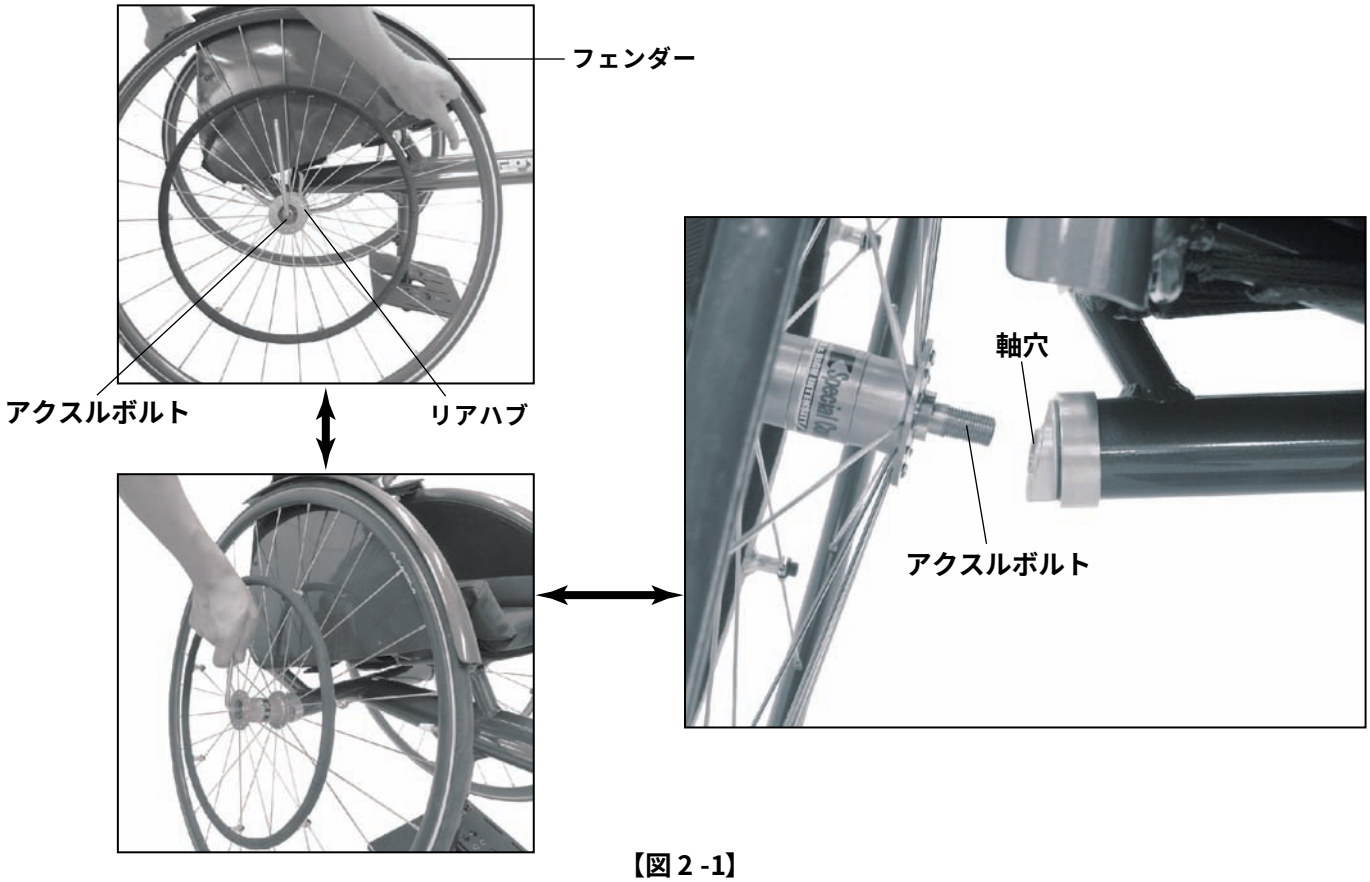
＊確実に固定されていないと、ホイールが外れ転倒、転落のおそれがあります。

⚠注意

軸穴は精密加工されているので、キズをつけないように注意する。

＊キズが付くとアクスルボルトが入らなかったり、入りにくくなったりして危険です。

＊アクスルボルトが入らなかったり、入りにくくなるなどの異常がある場合は、販売店にご相談ください。



【図２-1】

フロントホイールの調整・点検

＜フロントホイールの外し方＞【図２-2】

１）左右の①ボルトを外す。

２）フロントホイールを外す。

＜フロントホイールの取付け方＞【図２-2】

１）フロントフォークの取付け位置にホイールを合わせる。

２）①ボルトで左右を確実に締付ける。

＜フロントホイールの点検＞【図２-2】

○ フロントホイールを回転させ、異音、ガタ、回転不良がないか点検してください。

○ タイヤに亀裂、損傷、限度を超えた摩耗がないか点検してください。

※ 上記のような症状が見られましたら、交換してください。

※ ベアリングは定期的にスプレークリーナーなどで十分清掃し、潤滑剤などを塗布します。

⚠警告

ホイールが確実に固定されていることを確認する。

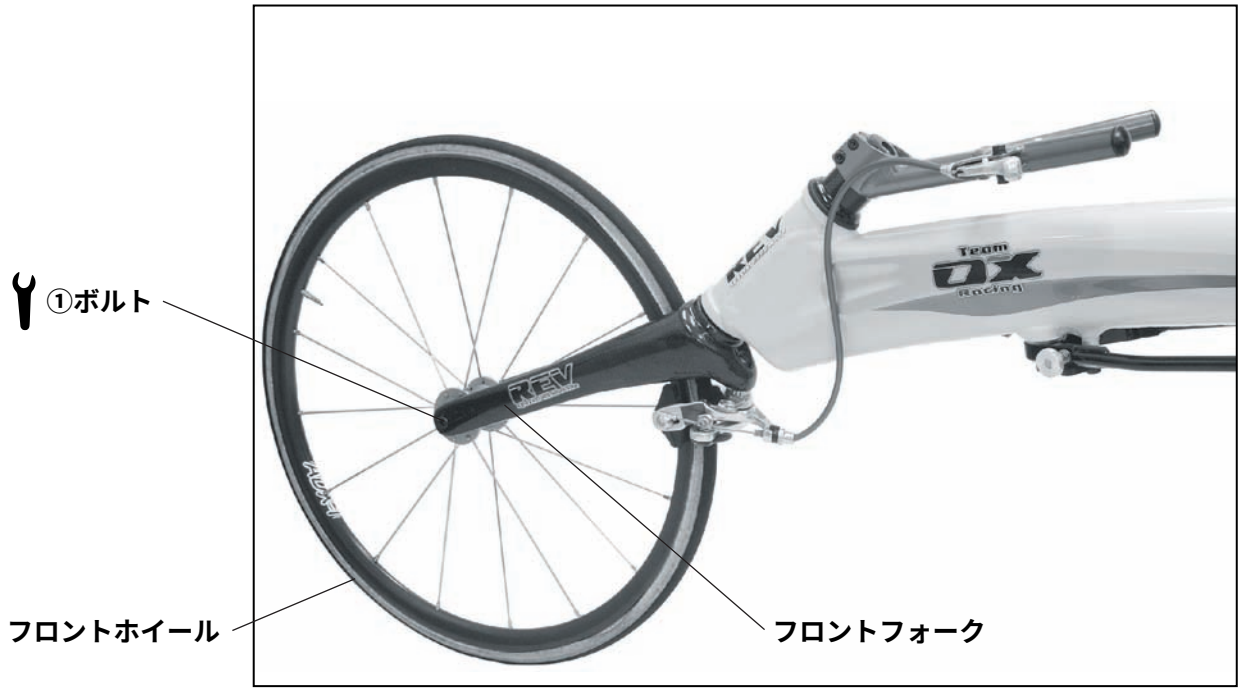
＊確実に固定されていないと、ホイールが外れ転倒、転落のおそれがあります。

⚠注意

フロントホイールの大きさは変えない。

＊ブレーキやフロントフォークに不具合が生じ、事故のおそれがあります。

①ボルト締付けトルク　10N･m(１0kgf･m)



【図２-2】

その他の点検

＜タイヤの点検＞

１.亀裂、損傷、異物、溝の深さ、異常な摩耗などを点検します。

２.タイヤに異常がある場合は販売店で点検、整備を受けてください。

※ タイヤ交換はホイールを外し、ホイール・タイヤを購入された販売店もしくはお近くの自転車販売店（ロードバイク取扱店）に修理依頼してください。

※ 自転車販売店には、タイヤ及びリムセメントの在庫はありませんので、予備の用意をおすすめします。(ロードバイク等を取扱っている店には、リアタイヤ及びリムセメントを在庫している場合があるのでご確認ください)

タイヤ空気圧の目安※注１

		フロントホイール	メインホイール
タイヤサイズ		18･20インチ	26･27インチ
適正空気圧	kPa	900～1200	900～1200
	kg/㎠	9.0～12.0	9.0～12.0
	PSI	130～170	130～170

※注１：上記タイヤ空気圧は、だいたいの目安にしてください。購入したタイヤや、タイヤの取扱説明書に表示してある空気圧を守ってください。

⚠注意

○パンクしたまま使用しないでください。

○空気圧が少ないと車いすの操作が重くなり、パンクしやすくなります。

○空気圧が少なすぎると、リムからタイヤが外れるおそれがあります。

○空気圧が多すぎると気圧や温度の変化でパンクするおそれがあります。

○タイヤは、リムに合ったものを使用しないと、パンクするおそれがあります。

○左右の空気圧は同一にしてください。

＜ホイール ･ハンドリムの点検＞

１.ホイール・ハンドリム

ホイール、ハンドリムの動きに異常が感じられたら、点検を行い、必要に応じて清掃、注油、増し締めなどを行ってください。

２.ホイールシャフト

ホイールシャフトの動きに異常が感じられたら、点検を行い、必要に応じて清掃、注油、増し締めなどを行ってください。

4章
操舵部

この章では、操舵に関する調整について説明しています。

- トラックバーのやさしい調整・点検
- トラックバー及びダンパーの調整・点検
- ブレーキの調整・点検
- ハンドルのガタ修正

トラックバーのやさしい調整・点検

＜トラックバーの使用方法＞【図３-1】

○ トラックバーは主にトラック競技で使用します。真っ直ぐに走りたい時はトラックバーの右を、コーナーでは左をメインパイプの方向に、アジャストボルトが次ページの「C」に接触するまで押します。

※ トラックバーは主に反時計回りのトラック用に作られております。時計回り用のトラックバーをご使用の方は、このページに記載されている左右が逆になりますのでご注意ください。

＜トラックバーの調整（直進）・点検＞【図３-1】【図３-2】

○ 工場出荷状態からの直進調整については、次の方法で調整してください。更に細かく調整する際は、Ｐ23を参照してください。

○ 次の調整は平らな広い場所で行ってください。

1）どちらか一方のアジャストボルトを「C」に接触させる。

※ トラックの周回方向が反時計回りの為、主に乗車して右側のアジャストボルトを接触させます。

2）「C」に対してアジャストパイプを垂直にする。

3）メインパイプに対してフロントホイールが真っ直ぐになっていることを確認する。

4）GPXに乗車して、直進できるか確認する。直進しない時は、右側のアジャストボルトをどちらかに回して「C」に接触させて微調整する。

5）4）を繰り返して真っ直ぐ走行するまで調整する。

＜トラックバーの調整（コーナー）・点検＞【図３-1】

1）GPXに乗車して、走行するトラック（コース）のコーナー入り口で左側のトラックバーをメインパイプの方向にアジャストボルトが「C」に接触するまで押す。

※ トラックの周回方向が反時計回りの為、主に乗車して左側のトラックバーを押します。

2）コーナーR（曲がり具合）に合うように左側のアジャストボルトイプをどちらかに回して調整する。

3）1）2）を繰り返しコーナーRに合うように調整する。

⚠警告

トラックバーを使用する際は、根元をにぎらない。

＊指などをはさみ、事故やケガのおそれがあります。アジャストボルトから離れた箇所をにぎってください。

⚠警告

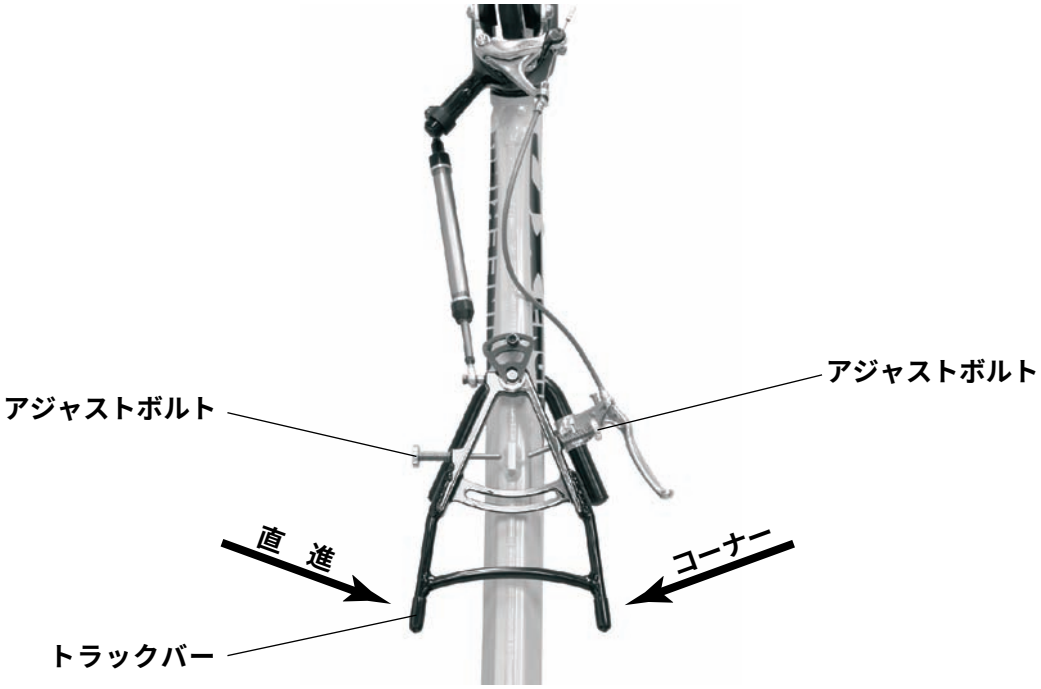
アジャストボルトによる蛇角調整は、バネが遊ばない範囲内で調整する。

＊アジャストボルトが外れ、転倒のおそれがあります。バネが常時押されている状態にしてください。

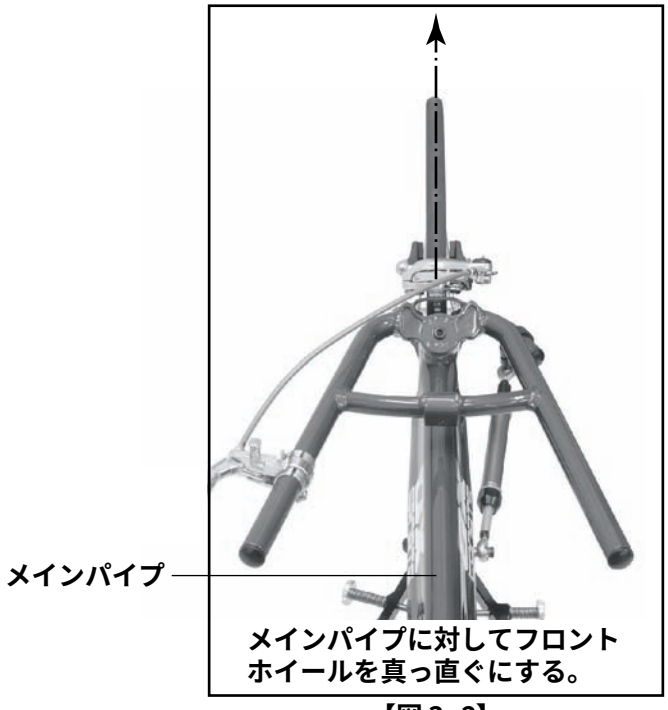
⚠注意

トラックバーに体重をかけない。

＊トラックバーが曲がったり折れたりして、転倒・転落のおそれがあります。


アジャストボルト
アジャストボルト
直　進
コーナー
トラックバー

【図３-1】


メインパイプ
メインパイプに対してフロント
ホイールを真っ直ぐにする。

【図３-2】

トラックバー及びダンパーの調整・点検

＜トラックバーの調整・点検＞【図３-3】

1）①ボルトを外し、セットプレートを外す。
2）ハンドルを切ってもトラックバーが動かないところまで、アジャストナットを回して調整する。（強く締めすぎないように注意してください）
3）セットプレートの角度を振り、アジャストナットに合わせて①ボルトで締付ける。
4）トラックバーが「A」＝「B」になるように左右どちらか（トラック競技で使用する時は、周回方向に合わせてどちらか選んでください）のアジャストボルトを「C」に接触させる。

＜ダンパー（直進）の調整・点検＞【図３-3】【図３-4】【図３-5】

1）＜トラックバーの調整・点検＞を行う。
2）前方の②ナットを緩める。
3）前方の「D」の間隔を10mm以内の範囲で、③を回してメインパイプとフロントホイールが真っ直ぐになるように調整する。【図３-4】

※ 上記の作業を行って「D」の間隔が10mm以上になる時は、次の作業を行った後、2）、3）、4）を行ってください。
1、後方の②ナットを緩める。
2、後方の④ボルトを外す。
3、⑤を回して後方の「D」の間隔を10mmの範囲内で広げる。
4、左右のアジャストボルトを「C」から離れる方向へ回す。
5、トラックバーを動かし、⑤の穴とトラックバーの穴位置を合わせる。
6、④ボルトで⑤を締付ける。
7、＜トラックバーの調整・点検＞の４）を行う。
8、後方の②ナットを締める。

4）前後の⑤の可動範囲を妨げない位置【図３-5】で、前方の②ナットを締める。

＜ダンパーのガタ修正＞【図３-3】

1）⑥と⑦ナットにスパナを掛け、⑦ナットを回して緩める。
2）⑥を一度緩めてから、ハンドルを左右に振りながら再度手で⑥を締め直し、ガタが無くなるところで⑥と⑦ナットにスパナを掛け、⑦ナットを回して締める。

①ボルト締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）
②ナット締付けトルク	6N・m（0.6kgf・m）
④ボルト締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）
⑦ナット締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）
⑧ボルト締付けトルク	6N・m（0.6kgf・m）

⚠警告

トラックバーを使用する際は、根元をにぎらない。
＊指などをはさみ、事故やケガのおそれがあります。アジャストボルトから離れた箇所をにぎってください。

⚠警告

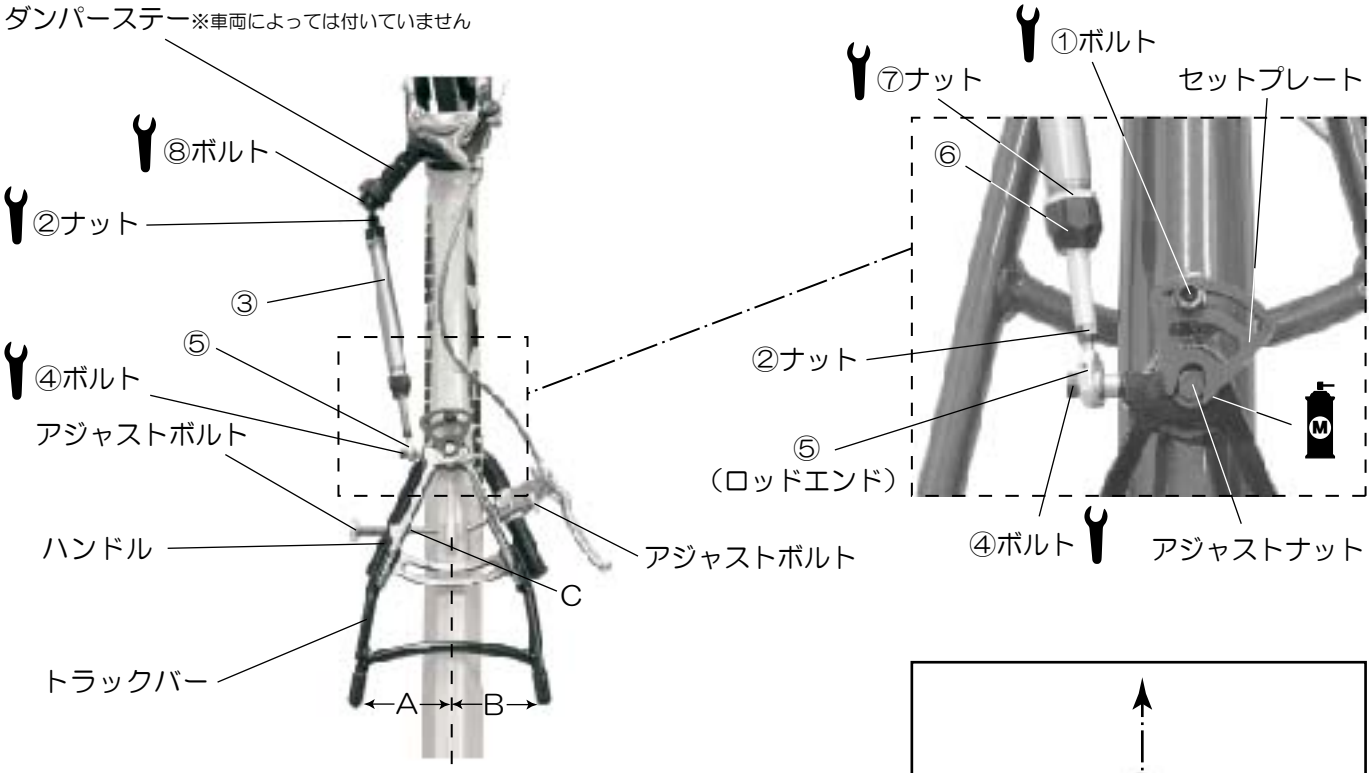
アジャストボルトによる蛇角調整は、バネが遊ばない範囲内で調整する。
＊アジャストボルトが外れ、転倒のおそれがあります。バネが常時押されている状態にしてください。

⚠警告

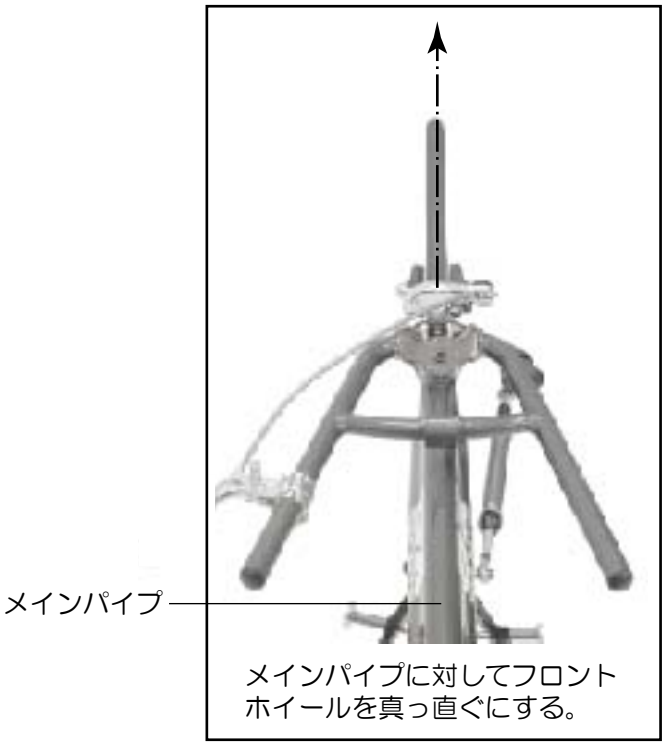
「D」の間隔は必ず10mm以内の範囲で調整する。
＊⑤（ロックエンド）が外れ事故のおそれがあります。

⚠注意

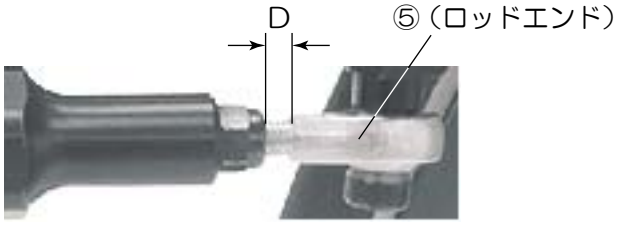
トラックバーに体重をかけない。
＊トラックバーが曲がったり折れたりして、転倒・転落のおそれがあります。


ダンパーステー※車両によっては付いていません
⑧ボルト
②ナット
③
⑤
④ボルト
アジャストボルト
ハンドル
トラックバー
C
A
B
アジャストボルト
①ボルト
⑦ナット
セットプレート
⑥
②ナット
⑤
（ロッドエンド）
④ボルト
アジャストナット

【図3-3】


メインパイプ
メインパイプに対してフロント
ホイールを真っ直ぐにする。

【図3-4】


D
⑤（ロッドエンド）

【図3-5】

ブレーキの調整・点検

＜ブレーキの微調整＞【図３-6】

○ アジャスターを回して、ブレーキシューとリムとの間隔を調整します。
ブレーキシュートリムとの間隔は、 3mm程度に調整してください。
尚、「A」の突出しは、必ず 2～ 8mm以内の範囲で調整してください。

＜ブレーキの調整＞【図３-7】【図３-8】【図３-9】

ブレーキワイヤーが伸びてきた時、＜ブレーキの微調整＞を行い「A」の間隔が２mm以下になる時や、ブレーキレバーとハンドルバーに指をはさむ場合は、次の調整方法で調整します。

1）アジャスターを回して、「A」の突出しを増やす。
2）②ボルトを少し緩める。（ワイヤーが動かせるまで）
3）ブレーキシューがリムに接触するように、左右のブレーキシューをにぎり、ブレーキワイヤー先端を矢印の方向に引く。
4）ワイヤーを溝に合わせ、②ボルトを締める。
5）ブレーキシューから手を離し、リムとの間隔が 3mm程度か確認し、必要に応じて＜ブレーキの微調整＞を行う。
6）ブレーキレバーをにぎり、ブレーキレバーに指をはさまないか確認する。

＜ブレーキシューの調整＞【図３-6】【図３-7】【図３-8】

ブレーキシューがタイヤに当たる時や、その逆でリムの内側（スポーク側）に当たる場合は、次の調整方法で調整します。

1）左右の③ボルトを緩める。
2）左右のブレーキシューを最適な位置に（リムの端（タイヤ側）から 3mm程度下に接触する）合わせる。
3）左右の③ボルトを締める。
4）ブレーキレバーをにぎり、ブレーキシューがタイヤ、スポークに当たっていないか確認する。
5）必要に応じて＜ブレーキの微調整＞を行う。

＜ブレーキの片効き修正＞【図３-7】

○ ブレーキをかけていない時に、ブレーキシューとリムとの間隔が、左右で大きく異なる場合は、①をドライバーで回すことにより調整出来ます。

②ボルト締付けトルク	6N･m（0.6kgf･m）
③ボルト締付けトルク	6N･m（0.6kgf･m）

⚠警告

「A」の突出しは必ず 2～ 8mm以内の範囲で調整する。
＊アジャスターが外れ、ブレーキがかけられず、事故のおそれがあります。

⚠警告

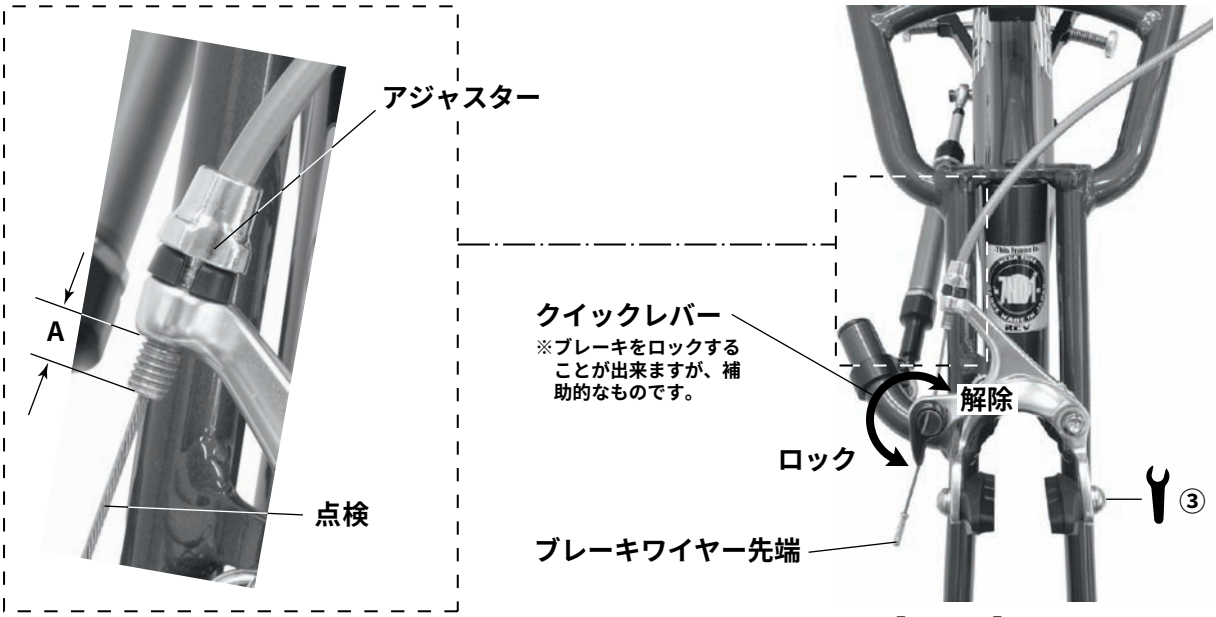
使用前にブレーキワイヤーのほつれ、傷み等が無いか点検する。
＊ブレーキワイヤーが切れ、ブレーキがかけられず、事故のおそれがあります。図中の 点検」箇所は、特に切れやすい場所ですのでこまめに点検してください。

⚠警告

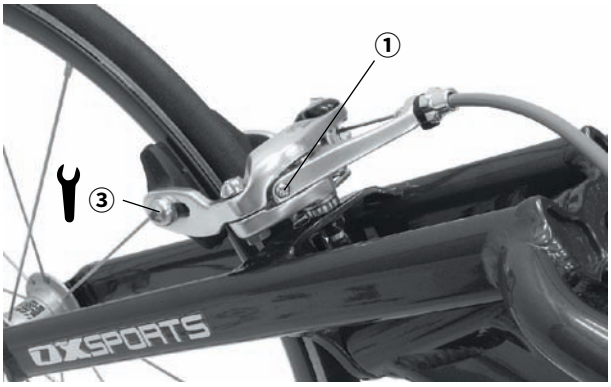
ボルト、ナット、ネジ類の締め忘れが無いか調整後に必ず確認する。
＊ブレーキがかけられず、事故のおそれがあります。

⚠注意

ブレーキシューの位置を上げすぎたり下げすぎたりしない。
＊ブレーキシューがスポークやタイヤに当たりホイールがロックするおそれがあります。

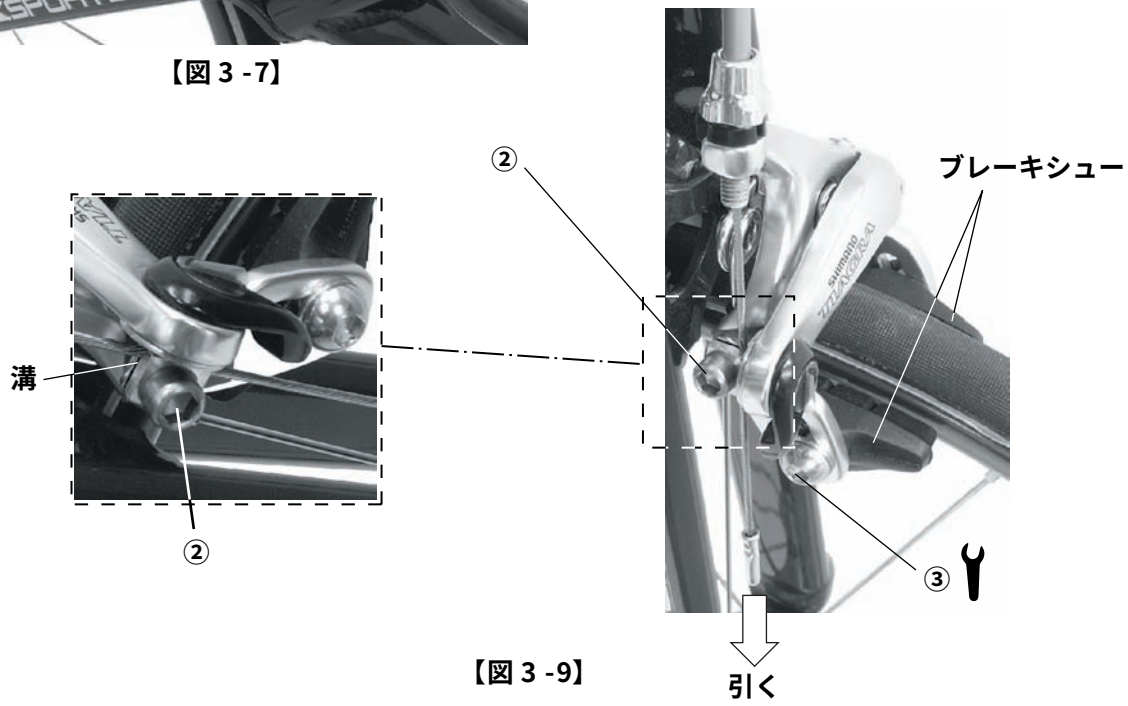


【図３-6】



【図３-7】

【図３-8】



【図３-9】

ハンドルのガタ修正

＜ハンドルのガタ修正（R-07）＞【図3-10】

○ 構造上、使用しているとハンドルにガタが出てくることがあります。
そのような場合は、次の方法でガタの修正を行ってください。

1）市販の六角レンチ（4㎜）で①ボルトを緩める。
2）ガタがなくなるまで②ボルトを徐々に締付ける。
※②ボルトはハンドルのガタを修正するためだけのものです。
あまり締め過ぎるとハンドルが重くなったり、フロントフォークが破損するおそれがあります。徐々に締付け、ガタがなくなったところで締付けるのをやめるようにしてください。
3）ハンドルがフロントホイールに対して真っ直ぐになるようにし、①ボルトを交互に均等に締付ける。
※片側を締め終えてからもう一方を締めるというやり方は、トルクが不均等になってボルトが緩む原因ともなります。必ず交互に均等に締付けてください。
4）ブレーキを掛けた状態で前後に揺さぶってみてガタがなくなったかを確認し、ハンドルがきちんと動作するかを確認する。

⚠警告

ガタがある状態で走行しない。
＊フロントフォークの破損や、事故のおそれがあります。

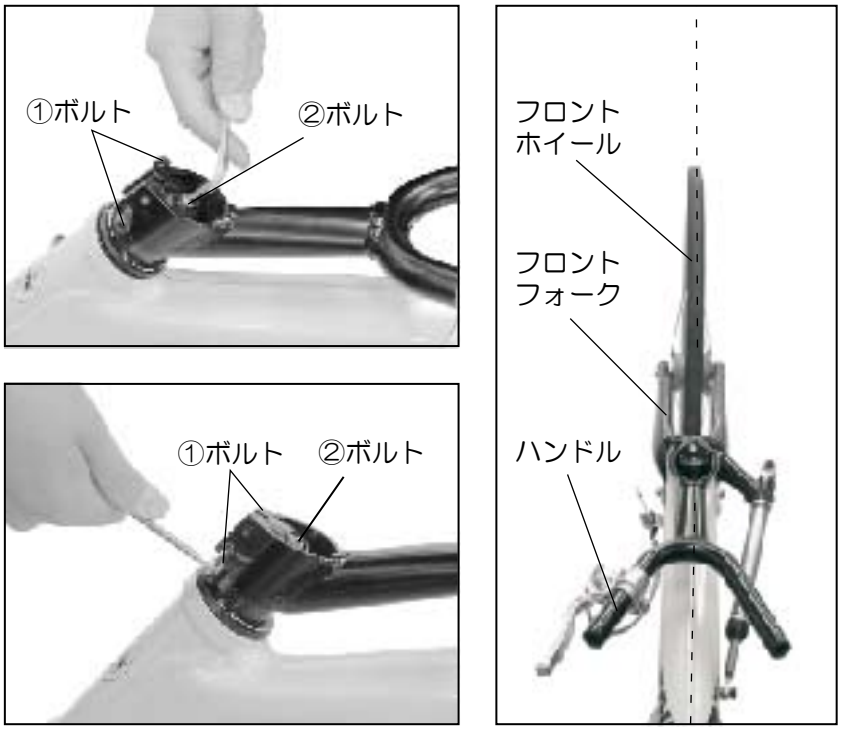
⚠警告

②ボルトは締め過ぎない。
＊ハンドルが回らなくなったり、フロントフォークが破損するおそれがあります。

⚠警告

①ボルトは交互に均等に締付ける。
＊片側づつ締めていくと、緩みの原因となり、事故のおそれがあります。

①ボルト締付けトルク　7N･m(0.7kgf･m)



【図3-10】

アクセサリー・アフターサービス

この章では、アクセサリーとアフターサービスに
関して説明しています。

フットボードの調整・点検

ハンドリムの着脱・点検

トーアングルゲージを使った点検・修正

お客様ご相談窓口のご案内

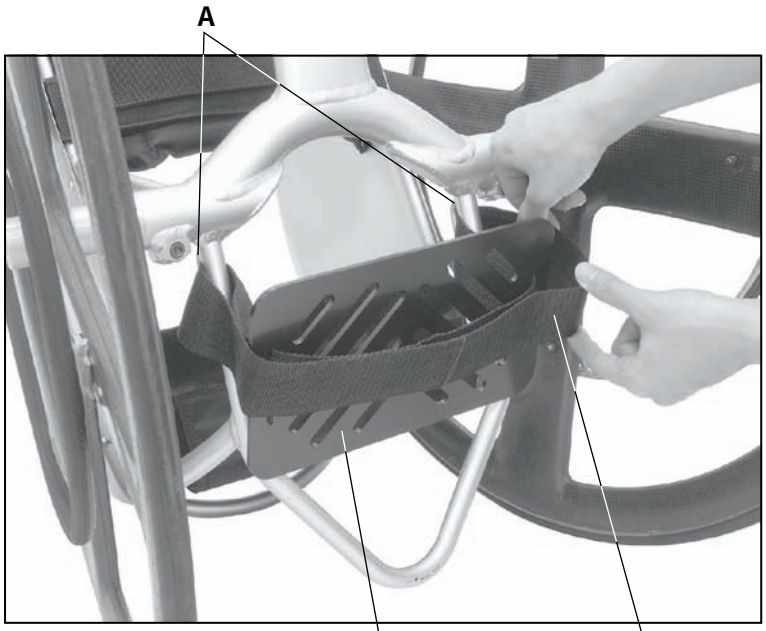
フットボードの調整・点検

＜フットボードの調整＞【図 4 -1】

1）フットベルトの､左右の面ファスナーを剥がす。
2）最適な位置にフットベルトの長さを合わせる。
3）フットベルトの、左右の面ファスナーを貼り付ける。

＜フットボードの着脱＞【図 4 -1】

1）フットベルトの､左右の面ファスナーを剥がす。
2）左右の「A」からフットベルトを抜き取る。
＊取付けの際は、逆の手順で取付けます。



【図 4 -1】

⚠警告

フットボードに乗ったり、立ったりしない。
＊転落や転倒などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

⚠警告

麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が接触しないように調整する。
＊褥瘡などになるおそれがあります。
＊調整後は必ず、麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が、接触していないことを確認しましょう。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。
＊固定力が低下して、調整状態が変わります。

⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して、調整状態が変わります。

ハンドリムの着脱・点検

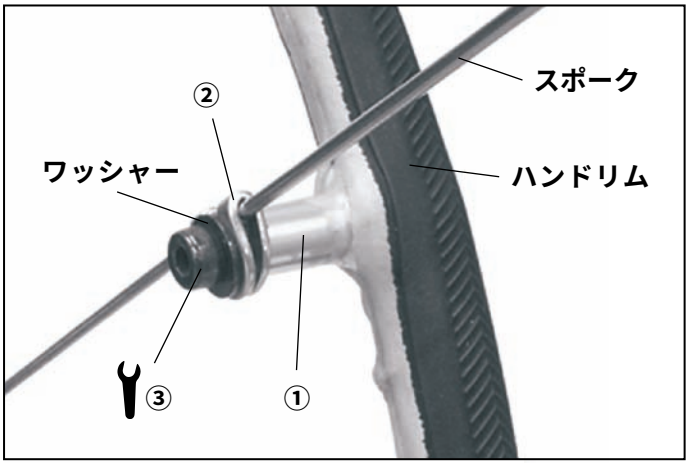
＜ハンドリムの着脱方法＞**【図４-2】**

○ **取外す際は、ハンドリムの全ての①から、③ボルト、ワッシャーを外します。取付ける際は、①の取付穴と②を図のように合わせ、ワッシャー、③ボルトで全て取付けます。**

⚠警告

使用前に、③ボルト及びスポークが緩んでいないか確認する。
＊走行中に外れ事故のおそれがあります。

③ボルト締付けトルク　8N･m（0.8kgf･m）



【図４-2】

トーアングルゲージを使った点検・修正

＜トー角の点検＞【図４-3】

1）ホイールを固定して、トーアングルゲージを【図４-3】の様に置く。
2）トーアングルゲージと左右のホイールの前後に隙間が無いか確認する。隙間がある場合は、＜トー角の修正＞を行う。

＜トー角の修正＞【図４-3】【図４-4】

1）左右の①ボルトを緩める。
2）スパナでキャンバーブロックを動かし、【図４-3】のような方法でトー角を0度にする。
3）アクスルブラケットに、キャンバーブロックが最後まで入っていることを確認する。
4）左右の①ボルトを確実に締付ける。

①ボルト締付けトルク　15N･m(１５kgf･m)

⚠注意

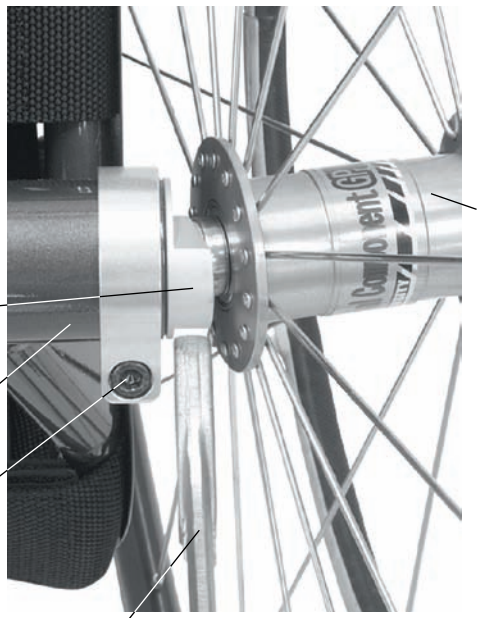
アクスルブラケットとスペーサー（※注）、キャンバーグロックとスペーサーの間に隙間を作らない。

＊キャンバーブロックが抜け、事故や転倒、転落のおそれがあります。

別売
トーアングルゲージ

タイヤ前後の側面に、トーアングルゲージをしっかりと接触させる事で、トー角０度。

【図４-3】



ハブ
キャンバーブロック
アクスルブラケット
①ボルト
スパナ

【図４-4】

※注：アクスルブラケットとキャンバーブロックの間にスペーサーが付属されている車両もあります。

お客様ご相談窓口のご案内

《お客様ご相談窓口》

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについてご質問、ご意見、ご要望などがございましたらご遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーに関するお問い合わせもご遠慮なくお寄せください。

株式会社オーエックスエンジニアリング
営業部　お客様ご相談窓口
TEL 043-228-0777　FAX 043-228-3334

《アフターサービスの実施》

お買い上げいただきましたお取扱店が点検、修理をはじめ、アフターサービスのご相談などをお受けいたします。

当社への部品のお問い合わせや、故障個所をご説明いただくときなどは次の方法でお問い合わせください。

本書をお手元に用意していただき、巻末に記載されている取扱説明書NOを確認して、「GPX○○年○月○版の○○ページの、図○-○の、○○○」とご説明ください。

例）　14ページの、図1-5の「シートレザー」
例）　18ページの、図2-2の「①ボルト」

お問い合わせ先
株式会社 オーエックスエンジニアリング
営業部　お客様ご相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL 043-228-0777
FAX 043-228-3334

《パンクでお急ぎの場合には》

お近くの自転車販売店に修理を依頼してください。（P.19参照）

販売元
株式会社オーエックスエンジニアリング
〒265-0043 千葉市若葉区中田町 2186-1
URL www.oxgroup.co.jp

不法廃棄はしないでください。

GPX取扱説明書
2007年6月 4版
©OX ENGINEERING